



十文字西 公民館だより

■令和4年度-3号
令和4年 6月 1日発行
〒019-0513
十文字町植田字一ト市330
☎ 44-3100 FAX 44-5243



十文字西地区交流センター長
(兼) 公民館長 近 孝夫

十文字西地区の皆様お元気ですか。

6月を迎えてもロシア・ウクライナ戦争が延々と続き、世界の平和が怪しくなり、それに伴う物価高、加えて、新しく変異したコロナウイルス、まだまだ不安な日々が続いております。1977年9月28日過激派「日本赤軍」のハイジャックメンバーらが要求に応じない場合は人質を殺害するとした。これに対して福田赳夫首相（当時）は「人の命は地球より重い」と述べております。今、正にこの言葉が死語にならないようにしたいものです。

また、さきがけ新聞（5月5日付）によると、全国の14歳以下の子どもの数は41年連続で減少しており、人口に占める子どもの割合は本県が一番低い状況でした。依って、子どもを産み育てやすく、子どもの幸せを第一とする「社会づくり」が不可欠であり、子供たちの笑顔を守るために何が出来るか共に考える日にしたいと掲載されておりました。（日本にとっては勿論、我が秋田にとっても深刻な問題です）

ところで、6月は、別名：水無月（みなつき）と言われます。水無月は、水のない月ではなくて、田水之月（たみのつき）つまり、田に水を一杯にたたえる月のことだそうです。四季を楽しめる日本では、6月1日と10月1日をめでに、季節に合わせて衣服を着替える「衣替え」が行われます。季節感のある装いをする事は「身だしなみ」のひとつであり、また同時に子どもの成長を感じたり、お下がりを譲ったりするなど、物を大切に使う日本の文化を感じる機会でもあります。これも偏に農耕文化からの所以ではないでしょうか。



～ 偉人の言葉に学ぼう ～

◆心に響く「論語」より

「子曰く、人の己れを知らざることを患えず、
人を知らざることを患う。」

～ 人が自分の価値を知ってくれないことを気にかけるよりも、
自分が人の価値を知らないことを気にかけるべきだ ～

《意味》他人に認めてもらえないことを嘆くよりも、他人を理解できず、
その価値を認めることができない自分のことを思い悩むべきだ。



お知らせ

今後の交流センター事業の日程について

●館報5月号で年間事業をお知らせしましたが、開催日程が未定だった事業と変更された事業についてお知らせします。（チラシはあらためて発行します）

ふるさと歴史探訪 ～吉乃鉱山見学と歴史講話～ 7月17日(日) 9時半～12時

増田町西成瀬地区交流センター長の季子和春さんの案内で鉱山跡地を見学し、その歴史についての講話を予定しています。当日は、西地区館から市バスでの移動研修となります。



地区民大運動会 ～植田・睦合地区合同開催～ 8月28日(日) 9時～12時

十文字西スポーツ交流センター（旧西中）グラウンドを会場に初めて植田・睦合合同で開催します。プログラム等詳細については今後検討してお知らせします。



安心安全教室 ～コロナ禍での家族防災～ 10月23日(日) 10時～12時

日赤秋田短大講師の及川真一さんを講師に迎え、日ごろから心がけたい防災の知識を学び、非常時に役立つテントと段ボールベッドの組立てについて体験します。



★健康スポーツフェス開催！ 5月25日(水) 十文字西スポーツ交流センターにて

●コロナ禍で2年間中止となっていましたが、チャレンジデーの応援事業としてスマイルボウリングを開催しました。参加者の皆さんは、にしの杜保育園児のかわいい声援を受けながら和気あいあいとした雰囲気の中ゲームを楽しんでいました。



そろそろ田植えも終わりに近づき、地域の皆さんは一息ついている頃でしょうか。梅雨の季節ですが、熱中症にも気を付けながら元気にお過ごしくださいね。（事務局）